

夏の企画展「記録されたオリンピック」の開催と 「ぶん蔵」の活用について

塩 満 正 哉

高田雄太 小林繁子 森田健嗣

1. オリンピック展の内容・構成について

平成20年7月22日（火）から9月19日（金）まで、当館1階の国立近代美術館側のスペースで開催された夏の企画展は、開催期間中に北京オリンピックが開催されることや現在2016年の東京オリンピックへ向けて招致活動が行われていることに鑑み、テーマに「オリンピック」を選んだ。タイトルを「記録されたオリンピック」とした。

展示会の構成は、「戦前のオリンピック」、「戦後のオリンピック」、「そして、未来へ……」という3部構成にした。「オリンピック」とはいつても、第1回アテネ近代オリンピックから網羅的に振り返るわけではなく、東京オリンピックに焦点を絞っての展示を行った。「戦前のオリンピック」では、昭和15（1940）年に開催予定であった幻の東京オリンピックに関する一連の資料を主に紹介した。「戦後のオリンピック」では、昭和39（1964）年の東京オリンピックに関する資料群を紹介した。「そして、未来へ……」では、2016年の東京オリンピックの招致ポスター7枚を展示した。

各セクションの参考に、オリンピック関連年表と過去のオリンピックにおける日本人のメダル獲得数及び参加選手数のパネルを作成した。

資料構成としては、国立公文書館の他、昭和館、外務省外交史料館、東京都公文書館の資料を展示した。

展示の全体的内容は、昭和15（1940）年に開催予定だった幻の東京・札幌オリンピックが、戦後、昭和39（1964）年、昭和47（1972）年にそれぞれ実現した、という流れに沿って構成した。

以下、具体的な内容を記す。

戦前のオリンピック

1. 第8回パリ大会へ選手派遣
2. 永田東京市長が齋藤実外務大臣に送った要請文書
3. IOC 会長ラツール伯の視察
4. 東京において第12回国際オリンピック大会を開催する件（請願建議）
5. 準備は進む東京オリンピック大会（写真週報）
6. IOC によるオリンピック開催辞退の勧告、中止決定を各国公館に電報で報知
7. 皇紀2600年関係文書（準備委員会文書）

戦後のオリンピック

8. 戦後初のオリンピック招請
9. 開催候補地・東京への航空アクセス
10. オリンピック準備事務局を設置

11. 国立競技場法、同法施行令、競技場図面
12. オリンピック東京大会の準備のために必要な特別措置に関する法律
13. 国立学校などに募金を呼びかけた文書、入場料金決定について
14. オリンピック大会記念硬貨
15. 絵新聞「オリンピック東京大会の競技場」
16. 東京オリンピック聖火リレー
17. 札幌オリンピックに関する世論調査
18. オリンピック札幌大会の準備等のために必要な特別措置に関する法律

「戦前のオリンピック」編は、昭和館提供の4枚のベルリンオリンピック関連パネルから始めた。競泳の前畑秀子や馬術競技のパロン西（西竹一）などの画像である。1では、国立公文書館が所蔵するオリンピック関連資料で最も古いものを展示した。第8回パリ大会への日本人選手の派遣費用が、国庫余剰金から出されたことを記す資料である。2から6では、戦前の東京オリンピックの招致活動から大会返上までの軌跡を紹介した。その際、IOC委員の副島道正によるムッソリーニへの直談判やロンドンの突如の開催地立候補などを関連資料で紹介した。5の関連資料では、東京オリンピックとともに大会返上が決まった戦前の札幌オリンピックについての資料を展示した。7では、皇紀2600年の関連行事として行われた東亜競技大会に関する資料を紹介した。


「戦後のオリンピック」編は、8の戦後初のオリンピック招請文から始めた。東京都が昭和27（1952）年にIOCに対し送付した第17回大会の開催招致懇請電報である。その後、9と10で第18回大会の招致活動に関する資料を展示し、11から16までは、10円募金、記念硬貨の発行、聖火リレーなどの資料を展示して、大会開催へ向けて着々と準備が進んでいく様子を公文書から再現できるように努めた。最後、17と18については、昭和47（1972）年の札幌オリンピックに関連する資料を展示した。また、昭和館から提供された東京オリンピックの開会式や閉会式の画像パネルも7枚展示した。


以上の内容を、「ぶん蔵」キャラクターの対話形式で紹介した。クイズも出題して、各内容を有機的に結びつけ、同時に、来場者の興味を引くように努力した。

2. 「ぶん蔵」におけるオリンピック展のPR

企画展「記録されたオリンピック」の開催に先がけて、「ぶん蔵」サイト上でも「お知らせ」で告知するのはもちろん、他にもいくつかのPRを行った。以下にその内容を挙げる。

1) オリンピッククイズ

| ぶん蔵オリンピッククイズ 



いよいよ2008年、4年に一度のオリンピックが開催します。それにあわせて、7月22日から9月19日まで国立公文書館でぶん蔵メンバーが登場する夏の企画展「記録されたオリンピック」が開催されます。クイズと企画展示で、オリンピック気分を盛りあげましょう！

【見出しを見る…】

「ぶん蔵」では従来より、サイトの内容をよりよく知ってもらい、知識の定着を図るためにクイズ形式を用いてきた。今回はオリンピックそのものに興味を持ってもらうことを目的として、「ぶん蔵オリンピッククイズ」と題して初級編・中級編・上級編・超上級編と4回に分けてクイズを掲載した。

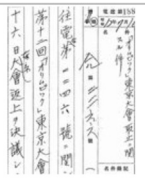
問題数は各10問ずつの合計40問で、ごく常識的なものからかなり難易度の高いものまで、大人

も楽しめる内容となるよう配慮している。

今回の企画展は昭和15（1940）年・昭和39（1964）年の東京オリンピックに焦点を当てたものであり、クイズも「第18回オリンピック東京大会で日本が獲得したメダルの総数は（上級編）」など第18回オリンピック東京大会に関する内容を中心に構成した。しかしまた、「近代オリンピック第一回の開催地はどこか（初級編）」など近代オリンピックの発祥から「日本人初のIOC委員となったのは誰か（中級編）」など日本のオリンピック参加の歴史までバランスの良い設問を心がけている。問題作成に当たっては日本オリンピック委員会（JOC）広報のチェックを受けるなど慎重に検討した。

2) 関連コンテンツの作成

幻のオリンピック：大会返上までの軌跡




1940年に予定されていた東京オリンピックは、日中戦争による内外からの強い批判にさらされるなか、返上されてしまいました。このコーナーでは、大会返上までの軌跡を公文書とともにたどります。

[\[見出しを見る…\]](#)

今回の展示内容に関連させて、「ぶん蔵」の既存コンテンツ「公文書で歴史発見！」の中に新たに「幻のオリンピック：大会返上までの軌跡」と「雪と氷の祭典 札幌オリンピック」を作成した。「幻のオリンピック」は昭和15（1940）年に予定されていた東京オリンピックの招致から大会返上までを8話にまとめ、3回に分けて掲載した。

「札幌オリンピック」では昭和15（1940）年に予定されたものの東京大会と同様返上となったのち、昭和47（1972）年に札幌でアジア最初の冬季オリンピックが開催されるまでの5話を掲載した。いずれのコンテンツも、既存のデジタルアーカイブ資料のみならず、今回の企画展のために写真撮影した資料のデータも用いて作成されている。企画展との連動・データの活用という点で、これらコンテンツは今後のモデルケースとなると考えられる。

雪と氷の祭典－札幌オリンピック



アジア初の冬季オリンピックの舞台となったのは、世界有数の豪雪都市札幌でした。幻に終わった戦前の大会から1972年に行われた第11回札幌大会までを、公文書で追ってみましょう。

[\[見出しを見る…\]](#)

3. オリンピック展における「ぶん蔵」の活用

本企画展では当館初の試みとして、歴史公文書探究サイト「ぶん蔵」との融合を目指した。上述の通り、「ぶん蔵」サイトにて本企画展のPRやオリンピックにかかわる歴史公文書を紹介した。



本企画展ではサイト上だけにとどまらず、インターネットから飛び出し、展示会場で「ぶん蔵」キャラクターが展示資料を紹介するスタイルをとった。また、展示時期が学校の夏休みであり、普段は当館を訪れない中高生に興味を持ってもらうことも企図した。また、キャラクターを用いた親しみやすさから、当館へ関心をもってもらう、という相乗効果をもねらった。

まず、展示会場に入って真正面のケースに

「夏の企画展『記録されたオリンピック』へようこそ」「わたしたち『ぶん蔵』メンバーがご案内します」と記された左のプレートを設置した。絵の下には、「ぶん蔵」キャラクターの紹介をして展示の導入とした。そして、これから始まる展示への期待をふくらませることとした。

展示資料の解説には「ぶん蔵」キャラクターを用いた。あるキャラクターが問いを投げかけ、それに対し別のキャラクターが答える、という形式にした。以下の例をご覧ください。

1. 第8回パリ大会へ選手派遣



国立公文書館のオリンピック関連資料で、一番古いものはいつのものなの？



それは、ここにあるこの資料じゃ！
オリンピック選手の派遣費用に関わるものじゃな。何年の、どこで開催されるオリンピックが話題になっておるかな？



日本のオリンピック初出場は、第5回ストックホルム大会 [明治44 (1912) 年] です。しかし、現在、国立公文書館が所蔵するオリンピック関連の公文書で一番古いものは、第8回パリ大会 [大正13 (1924) 年] に関するものです。日本選手の派遣費用が、国庫の剰余金から出されたことがわかります。

このように「ぶん蔵」サイトと企画展とのコラボレーションをはかった。こうした展示方法を通じて、来場者の方々に広く歴史公文書への関心を持っていただけるよう考えたのである。

4. 実施してみたの感想

今回の展示にあたって、オリンピック関連の資料は、特に戦前のオリンピックについては当館の所蔵があまりなかったため、外交史料館に実物を含む資料の提供をお願いした。

特に、東京オリンピックの招致に至るまでの日本側関係者の努力、立候補を表明したイタリア、イギリスへの対処、昭和12 (1937) 年の IOC ベルリン総会で冬季の札幌とともに開催が決定したものの、昭和13 (1938) 年、戦争による影響などにより、返上に至るまでの状況などの戦前期のストーリーが公文書館の連携により実現した。

また、東京都公文書館には、昭和39 (1964) 年の東京オリンピックに関する公文書の資料群を所蔵しており、その中から、招致委員会の設置からオリンピックの実現に至る都の公文書 (実物) を展示させていただいた。

昭和27 (1952) 年から招致活動を開始、招致の理由として、航空機の発達により、東京へのアクセスが便利になったことなど様々な招致の努力をうかがわせる資料のほか、昭和33 (1958) 年の国立競技場の建設などのインフラの整備、同年、同会場をメインとした第3回「アジア大会」の実施や昭和34 (1959) 年の IOC ミュンヘン総会における第18回大会の東京開催決定後の法整備、雰囲気盛り上げるための内外における聖火リレーの資料など、一連のオリンピック開催のプロセスを紹介したものである。

展示資料の連携は、今回初めて実現したが、やはり、夏場の暑い時期の資料保存の問題など、クリアしなければならないことがあった。各機関の原本については休館となる週末の地下書庫による保存を行った。また、会期中で展示替えも実施し、配慮を怠らなかった。また、各機関の要請もあり、資料の運搬にも気を使い、会期終了後、全ての資料を返却してはじめて、ようやく息をつくという感じだった。

展示内容は、スペースなども考え、展示替えなどを実施しても、当初想定した展示資料を絞らざるを得ず、結果的に2～3割減らした。「昭和15（1940）年に開催予定だったものの、幻となり、長年の道民の悲願だった札幌オリンピックがようやく実現した」という記載のある旧文部省の移管文書などもっと展示したい文書がいろいろあったのだが、割愛した。

また、補助貨幣の1000円、100円東京オリンピック硬貨の実物を関係公文書の脇に設置したり、のぼりや写真、ポスター（昭和館、東京都など）といった各種広報資料を展示し、ビジュアルに訴えることも欠かさなかった。このほか、表彰台やメダルなどの展示も考えられたが（秩父宮記念スポーツ史博物館所蔵等）、費用、手続きなどの点において、難しいと判断し、取りやめた。

さらに、今回は、歴史公文書探究サイト「ぶん蔵」のキャラクターの姿が随所に織り込まれ、展示案内人となり、また、年表やクイズにも登場した。その結果難しくなる傾向のある公文書の展示会を少しは和らげてくれたことと思う。熱心に展示を見る子供もいて、うれしい光景だった。

中高生にも理解できるサイトを目指した「ぶん蔵」には、早くから「オリンピック」に掲載し、今回の展示の素材とした。また、開催前や開催中には「ぶん蔵」には、「オリンピック」に係る話題を多く取り上げ、展示会の来場者数増加を狙い、あわせて、「ぶん蔵」のアクセス数の増加につながるようにした。

展示会自体は、当館及び周辺において、団幕やポスターのPR、千代田区広報やインターネットなどでの展示会紹介、さらに、協力機関（東京都公文書館）における広報などを行った。入場者数は、あいにく天候不順（猛暑など）のため期待ほどではなかったが、期間中1454人であった。「ぶん蔵」のアクセスは、平成20年度に入り、トップページなどのリニューアルもあり、昨年度の倍に当たる毎月2万件以上で推移している。

なお、平成20年7月～8月にかけて、つくば分館内で行われていた夏の展示会「つくば今昔物語」にも展示案内として手作りで作成された「モジョジョ」や「くらら」などが入口の立看板となっていたほか、展示資料にも「ぶん蔵」キャラクターがふんだんに使われていた。なお、和綴じ体験講座なども人気で、展示室には多くの子供たちがいた。

本館とつくばにおける夏の展示で、「ぶん蔵」キャラクターは大きな役割を果たしたと思う。今後とも、この種の展示に活用してまいりたい。

塩満正哉（主任公文書専門官）

高田雄太 小林繁子 森田健嗣（統括公文書専門官室調査員）